

令和元年度 第3回 公立大学法人大阪経営審議会 議事録

日 時 令和元年8月22日(木) 13時00分～14時00分

場 所 あべのメディックス 8階 会議室1・2

出席者 (外部委員)

生野委員・上山委員・尾崎委員・川崎委員・土屋委員・福島委員

(内部委員)

西澤理事長・辰巳砂副理事長・荒川副理事長・金森理事・神田理事・辻理事

田頭理事・平田理事

(オブザーバー)

白井監事

I 議 事

【前回会議録の確認】

令和元年度公立大学法人大阪第2回経営審議会

【審議事項】

新大学基本構想について

II 主な意見内容

【審議事項】新大学基本構想について

(上山委員)

この資料をどういうふうにして作っていかれたか、特に府大・市大の現場の先生達とか、向こう十年二十年を担う先生達が、府大・市大でどこまで一緒に議論したのか検討プロセスをもう少し紹介していただきたい。

(田頭理事)

新大学設置に関しまして、11のワーキンググループ(WG)があります。これは大阪市立大学・大阪府立大学両方から、それぞれの分野や、新しい学部・研究科に該当する先生方で構成しています。中心になる先生は研究科長であったりしますが、上山委員がたぶん懸念されている、若手の先生にも入っていただき、2022年からの新大学をどういうふうにしていくか、研究をどのようにしていくかということを検討しております。

その過程の中で、6月にまず私どもの方で大体の原案を作った上で、それを各大学のWGを中心にして照会をしていくという形をとりながら、他方で大阪府・大阪市との協議を重ねながら、時には双方の思いが少しだけ違うところがあったりしますが、そこを修正というか調整し、両大学の教職員に理解を求めていきながら修正していくという過程であり、その中で経営審議会の先生方にもご意見を頂きながら修正したりして作っていったという経緯がございます。

(上山委員)

18のWGがだいたいどういうものか、もう少し具体的に説明いただけますか。

(田頭理事)

資料の20ページの真ん中が新大学になりますが、それぞれの新しい学部・研究科になるところが一つのWGとして、ここに14のWGがあります。

それから、これに加えて、入試・学生支援とか、あるいは研究支援に関係するWGがあり、18のWGです。

(上山委員)

教育・研究の現場の人たちの話はそれでわかりましたが、法人の中ではどういう検討をされたのか。特にガバナンス改革、あるいは統合によるシナジー・目標設定、新法人が新機能を作るわけですが、伝統的な大学の教育研究以外の機能についてどうするのか。その辺の検討経過もお願いします。

(西澤理事長)

新大学推進委員会というものがあります。これは法人の中の役員を中心にして、各部署から委員を出してもらい、かなりの回数を重ねながらその結果を調整してきているという段階です。

それから、府・市の委員が入りました新大学設置準備会議という会議で府市との討議もしてきております。

(上山委員)

推進委員会というのは一個ですか、何種類かあるのですか。

(西澤理事長)

先ほどのWGの上に全体の委員会である新大学推進委員会があり、その上に新大学推進会議という副学長等のいわゆる大学の要職にある者と法人側の役員が打ち合わせる会議体をやっています。

それと、先ほど申しました府市が入る新大学設置準備会議というのが府市との調整を行うための会議です。

(神田理事)

補足させていただきますが、ガバナンスとか、あるいは業務管理、組織管理に関しては、法人内部に検討委員会を立ち上げて、その中で検討しています。この間、経営審議会でも議論いただきましたように、まず法人統合がこの4月に相成り、法人統合までにすべき事柄と、2大学の間継続的に検討すべきこと、それから2022年に新大学が発足する時にすべきことをそれぞれ段階別に分けて検討して、順を追って業務を進めなさいということでご指示もあり、我々法人側もそれを主体的に考え、いま段階的に行っているところです。

業務につきましては、この4月にまず法人統合しましたが、来年申請をするので、それに向けて業務を見直し、ガバナンスについてもより深く検討していきたいというふうに思っております。取り組みの途上です。

(上山委員)

中身の話の口火を切るといことで少し感想を中心に述べます。

この資料をざっと見て、非常に良いと思うのは、後半の部分です。具体的なことがいっぱい書いてあって、特にキャンパスの話とかは踏み込んで書かれているし、具体的な戦略取り組みの中身や、先ほどの18のWGのいろんな議論をした成果が入っている。しかし前半が少しぼんやりしていると思う。

それにはいくつか理由があると思うが、一つは「はじめに」とか「策定の背景」がぼんやりしている。そもそも何のために統合するのかと背景説明が私は非常に弱い気がします。

今回は「今のままだといけない」「改革をしたい」という背景がある。ところがまるで「台風で家が壊れたので立て直します」みたいな感じの資料の作り方になっていて、意欲とか意思が前より全然感じられない。「外から言われているので統合することになりました」みたいなトーンで「どうしたいのか」という背景みたいなところがない。「なんで統合なのか」という部分があまりない。

それから統合した結果のいわゆるシナジー効果。そして「新しい機能を発揮したい」とか、「新しく何ができるのか」という部分の記述も、各論ではパラパラあるが、全体としてどうなのかよく分からない。「目指すもの」の章立ては一応あるが、この「目指すもの」の中味もあまりピンとこない。特に3ページの図は、9年前に同じようなもので見た覚えがある。まるで「市大と府大はそれぞれ別々です」「それぞれ伝統的な教育・研究・地域貢献に邁進します」と高らかに「今までのままでいたい」と宣言している図に見える。なぜこれが目次3のメインに入るのか。二つ別々の大学でいきたいという強い意志がこのページにはあるような気がして、よくわからない。

三つ目の問題は、目次8の「新大学での取り組み」。これは果たして取り組みなのか。目次7と目次8の関係がよくわからない。「めざす2つの機能と4つの戦略領域」の二つの機能というのは教育・研究以外に、シンクタンクだとか技術インキュベーションを意味する新しい機能の話だと思うが、目次8のところでは「新大学での取り組み」になっていて、これは教育・研究で二つの機能ではなく、地域貢献・国際化という、従来型の、全国どこの大学でも20年前から言っている四本柱に戻してある。だから目次7では「何か新しい機能を付け加えます」と言いながら、目次8では「具体的には従来型路線でいきます」と言っていて、目次7と目次8は論理矛盾だと思う。

この辺の構成の話もよくわからない。2ページの「策定の背景」も今までの議論と全然違う。元々大学統合が起こった議論は、一定の規模以上の大学は生き残れないという世界の動き。やはり規模拡大しなくてはいけない、世界の大学間競争の厳しさという状況認識があったと思う。それから2番目に、もったいないという話。「獣医と医学部は一緒にやれば創薬もできるんじゃないか」とか「農学部と医学部は一緒に研究ができるんじゃないか」という分野のシナジーの話です。それから3番目には、設置者側の都合だが、二重行政という話が明らかにあった。これが全て削除された。これは過去いろんな文章に散々書かれ、議会でも議論されてきた話ですが、2ページはそれを全部削除してある。

それから3ページには9年前の、法人統合はないという前提の時の図が来ている。これは法人統合に向けての3ページで載せるべき図ではないと思う。アペンディクスに昔の図として載せてもいいが。百歩譲ったとしても2ページのところの参考の図でしかない。

それから5ページに「数字で見る新大学」と書いていますが、この程度だったら府民・市民の理解を得られないと思います。「両方足したらこうなります」と言っているだけで、「足したら足した以上の効果が出ます」という話は何もしてない。こんな図を新構想として承認してしまうと、シナジーは出さなくて良いということをも認めたってことになるので、「やっぱり足

すだけでいいんだ」といことになってしまうと思う。単に法人の看板だけ付け替えて「二つの大学は別々に生きていきます」「足し算するとこういう数字にたまたまなる」と言っているだけの話。シナジー効果をどこにも求めないと宣言しているのが5ページになってしまう。

あと、7ページは二つの新機能が書いてあるが、新機能について「四つの戦略領域があります」とは一応書かれていて、後ろにあの四つの領域の説明もあるのはいいが、この7ページのところが浮いていて、その後ろの目次8と繋がってこない。目次7は「法人として」という話なのかもしれないが、では目次8は何かというと、今度は「大学として」と書いてあって、法人としては7ページだが大学としては従来型の路線で、「府大・市大それぞれで地域貢献・国際化を頑張ります」みたいな話になっている。だからこの目次8とさっきの3ページはセットになっていて、昔のものがそのまま生きている。全体として二つの機能と四つの領域及びキャンパスのところだけは新しいが、他には新しいことが書かれていないし、統合の背景も書かれていない、というのが私のとりあえずの感想です。

要するに、「改革するために統合する」とか「改革するとガバナンスがこのように変わる」といったことが全然書かれていない。「結局二つ足すだけです」と見えてしまう。

やるつもりだけど書いていないこともあり、細かいことは書いていないのかもしれない。しかし、やはりきちんと書かないと「やらない」ということの宣言になってしまう。特に昔の資料をこういうところに入れると、もう「先祖返ります」宣言になる。ある程度分厚くなくても仕方ないので、これまで議論してきたものは削除しないで入れるべきだ。

(西澤理事長)

ありがとうございます。今言われたことも、基本的には全く内容的には感じていることですが、特に目次5「数字で見る新大学」というのは非常に難しく、根拠なしにものを言えないので、「どういう表現をしたらいいか」ということでこういう表の形をとりました。

(尾崎委員)

いま上山委員が仰ったことと同じようなことかも知れませんが、目次4と目次5が少し気になりました。目次4で大学統合による効果とあるんですが、これは学部生や大学院生にどういう効果があるのか、そういうところがよく見えない。「新大学になったらこんないい大学になるので、大学統合によってこういう効果があった」ということは、確かに後ろの方で少し出てくるが、「グローバルな視野を持ち、都市課題を解決できる人間の育成」と抽象的に書いてあるだけではよくわからない。

それから目次5ですが、単純に足した現在の数字を挙げてある。「これしか今は数字がないので、これだけなんです」というのも分かるのですが、統合したら例えば、「学部の学生は増えるんですか、減るんですか。」「大学院生はどうなるんですか。」「教員数は一体どうなるんですか。」。この表は足しただけですが「もう少し増やすんだ」という意欲的なところが本当は欲しいと思います。そういうことを議論されていてこうなっているのか、議論されていないけれどとりあえず固い数字はこれなんです、か。これはもうずっと前から出ている資料なので、現在はこうで、将来はどうなのか。この数字は新大学じゃないです。単に現大学を足したらこうなる。そういうところが分かりにくい。これは府民・市民にも分かりにくいと思う。感想みたいなもので答えを求めるものではないですが。

(土屋委員)

「新しい大学の特色、謂わば尖ったところは何なのか」。どこにでもあるような大学ではなくて、この新しい統合した大学の、他に抜きん出た尖ったところは何なのか、ということ

す。新大学基本構想7ページの「新大学がめざす2つの機能と4つの戦略領域」が重要だと思います。Aのスマートシティ、Bのパブリックヘルス／スマートエイジング、それとCのバイオエンジニアリング、これらが、この新しい大学の尖った売り物になるという気が強くしています。それにDのデータマネジメントを加えていく。もちろん教育とか研究というのは基本ですが、その基本の中にAからDの戦略を軸にして様々なものを組み込んでいけたら良いと思います。ですから、この大学というのは、統合して規模だけが大きくなるのではないということです。日本にいろいろな大学がある中で、ここは統合して、選択と集中とを行う中で、「何が尖っているか」ということを明確にすることが必要だと思います。そうすると、いま申し上げた7ページに明記されているAからDの戦略領域は非常に重要なキーになるという感じがしています。それをベースにして新大学の諸施策を組み立てられるのではないかと思います。

それからもう一つは、都市問題の中で「大阪」が非常に強く出過ぎているように思います。設立団体は大阪府・大阪市ですからこれはある程度は仕方ないと思うのですが、都市問題への対処について、大阪がスタートで大阪がゴールのようになっています。都市問題というのは日本全体が抱え、また、これから抱える問題ですし、将来の世界的な問題でもあると思います。そういう面で、スタートとしてこういう形で大阪が強調されるのはやむを得ないかと思いますが、スタートもゴールも大阪のような感じを受けます。大阪の都市問題を極めていく中であぶりだされたものを、都市全体の問題に結びつけていくという発想が重要だと思います。以上2点、感想として申し上げました。

(西澤理事長)

ありがとうございます。

(福島委員)

パッと見たときに「府大と市大がいろいろな背景の中で統合され、なんかすごい新しい大学できるんだ」というのがほとんど無い。従来から「1足す1を3とか4にしましょう」と言ってきましたが、理事長が「先の目標はわからないんです」と言われましたが、やはり見て「日本で有数の、アジアでも有数の新しい大学ができるな」「国際競争力のある、アジアに開かれた大学ができるんだな」という印象が薄いです。「2つの機能と4つの戦略領域」のところはすごくいいと思う。4ページの「大学のプレゼンスの向上」と6ページの「新大学がめざすもの」、これだと思う。どこまで書き込めるか、色々テクニカルな問題は別にして、ここで目指すのは「大阪の発展を牽引する知の拠点を作りましょう」ということ、それから「世界に展開する高度研究型の大学」です。そのツール・手段として「二つの機能と四つの戦略領域を持ってやりますよ」と。たぶんこの6ページ目と4ページ目が世の中に出ていくようにならないといけないと思う。細かいことは別にして、これをいろんなステップで世の中に出す時、例えばマスコミに対するリリースの時に理事長は今回の新しい大学の目玉を3つから5つ位言えるように整理されたと思います。私がよく言っているように「ぜひアジアで有数の、ベスト30位から50位の大学を目指す」でもいいと思います。

定性的なもののプラス定量的なものが必要だが、定量的なものがほとんどない。いよいよ2022年から新しい大学ができる、そのスタートなんだという印象が薄くなっていると思う。国際化のところでも、具体的な数字がない。皆さんは「こんな現状の中で、5年後なんて言えるか」と思うかもしれないが、大学経営においては目標が必要です。定性プラス定量的の目標がないので、「すごい大学を作ろうとしているな」というインパクトが弱い。国際化でも、さっき上山委員がだいぶ厳しいことを言われていましたが、あまり変わっていない。ある意味では変わる

ことが一つの目的だと思う。なぜなら二つの大学を統合して新しい大学ができるので、その辺りをもう少し補強されたら良くなると思います。

それから後編では、データマネジメントのところをもう少し強調すべきだと思います。細かい話ですが、学科の名前の、「情報科学科」の中に「データ」も入れるとか、それからデータセンターも「『大阪』データセンターを作るんだ」とか、スマートシティも「大学が事務局をやるんだ」という心意気というか、そういうのももう少しあってもいいという感想です。

それから最後にもう一つ、これには大学職員のことを全然触れられていない。ぜひ、大学といえば学生さんがいて、先生がいる訳です。やはりもう一つは職員です。そこにほとんど言及されていないので、この中に入れるかどうかは判断お任せしますが、大学職員の戦力化と活性化を少なくとも1枚でいいので入れるべきだと思います。そうしないと、大学のステークホルダーの一つがここで欠落している訳です。

それともう一つ、あまり論理性はないかもしれませんが、府民・市民に何を訴えるのかという視点で、これをリリースするとき何をやるんだと考えると、このレポートが割とクリアに、シャープになってくると思う。

感想で申し訳ありませんが以上です。

(西澤理事長)

ありがとうございます。

(福島委員)

細かい話ですが、「社会貢献」と「地域貢献」の二つ言葉が出ています。6ページは「社会貢献」で16ページは「地域貢献」。これは何か意図して使い分けているのでしょうか。同じようなことを言うのであれば合わせていた方が良いのではないかと。

(田頭理事)

「地域貢献」と「社会貢献」についてなんですけれども、まず法律に基づく大学の役割というのが決まっています、それがまず教育、それから研究、それと社会貢献というようになっております。さらにその社会貢献を踏み込んで、教育の中にも存在するわけなんです、そこに地域貢献というのがあって、やはり大阪にある公立大学ということで、そこに踏み込んだ時に「地域貢献」という言葉になっているので、大きく分けている訳ではないんです。けれども、そのページの項目として、大学の、そもそも法律として求められているところはそういうふうに「社会貢献」と記載し、強調するところは「地域貢献」という形にさせていただいています。

(福島委員)

6ページ目と4ページ目はもう少しブラッシュアップされた方がいいような気がします。さつき上山委員が言っていたことと同じことを言います。これは上山委員が今まで長いことかわってこられたからだと思いますが、私は2年くらいですが、やはり4ページ目と6ページ目です。ここはもう少しブラッシュアップしてみたらいいのではないかと。それで今回新しく作る5つの視点のことと、ここの中全部リストアップしてみると何があるだろう、など、そんな作業をされた方がいいんじゃないかと。その中の一つはデータのところです。いま「万博のレガシー」の一つはデータだと言われている位です。データの出し手と取り手ですごくいろいろ課題がある中で、まさに公的なところがそれを担う訳です。この前のG20大阪サミットで「大阪ト

ラック」が全世界に発信されているので、そんなところをもう少し加味して強調されたら「あ、そうか」というふうになるんじゃないかなと思います。

(西澤理事長)

ありがとうございます。データについてはかなり重視した考え方を持っているのですが、確かにちょっとおもてに見えにくいかもしれません。ありがとうございます。

(上山委員)

資料の作り方について言うと、プレスリリースとか、「府民の皆様にはわかりやすく」という資料と、役所で使う資料は若干ずれる。難しいところはあるが、いくら役所が作る資料にしても、これは前半につまらないものをダラダラ書いて盛り下げてしまっている。

2ページは、二重行政とか大学間競争とか基本が完全に落ちている。3ページは余計だし、4ページもここで出す必要がなく、5ページも出す必要はない。これらは一番後ろにあってもいいのかもしれませんが。こういうことをやった時に数字がどのように変わるかは一番最後に来ればいい。最初にこういう抽象的なものが出てくるとピンとこない。3ページにいたっては絶対ない方がいいと思う。そして主役は6ページだと思う。

第一部というのは、「今までのままでいくとダメなんだ」「大きく変えないといけないと思っているんです」という話が簡単であって、その次に6ページ、7ページがたぶん主役だと思う。新しい部分でシンクタンクとかインキュベーションがあり、教育研究ももちろん変えるんだけど、パッと見て新しいのはやっぱり6ページ、7ページ。「ここの部分がシナジー効果です」というふうに言ってしまうのが一番早い。ところがこの6ページの作りが良くない。この真ん中の図の上半分が従来の大学機能で、これはしっかりやります、これを一層磨きますというのがあっても、下の新しい部分で、この二つの新しい機能が付け加えられていて、それと、後ろで四つの機能と言っているが、この図を見ると四つの機能がよくわからない。だから番号でもちゃんとつけて、機能は機能というイメージでしたらいいと思う。文科省が言っている三つというのは、注釈かなんかで「文科省の三つはこの三つだ」というように、ABCか何かつけるとかして、とにかくこの下の二つが大事ですと言って、7ページにスーッと流れて、6ページと7ページで何か新しいことをやるとすると伝わると思う。その後もひたすらこの新しい話を全部説明し、それが終わった後に、従来の大学の教育研究はどうするかという話に移ればいいと思う。今の資料は流れが良くない。途中で従来型大学の改革の話がいっぱい入って、それでまた24ページから後で、四つの戦略領域が出てきてしまう。あちこち行ったり来たりで訳わからなくなる。ページを入れ替えるだけでもかなりすっきりする。そういったテクニカルなことがいくつかあります。

シナジー、ランキングは「数字で見る大阪府立大学」や「数字で見る大阪市立大学」で出している。あの冊子にある共通の指標はたぶん10個ぐらいあると思うので、そのうち「この辺は特に頑張りたい」とか、「ここは放っておくと下がるんだけど現状維持ぐらいは頑張りたい」とか、濃淡つけるぐらいで載せたらいいと思う。いずれにせよ、全ての数字が、今までより絶対に良い状態になる、これらの数字10種類を意識しています、ということだけでいい。ちなみに、ただの足し算だけでも5ページのとおり今までより、足しただけだけど、それはそれで足し算してみたらこうなっていますというのがおまけで付いているぐらいでよい。これはもう出し方だけの話だと思う。それであとは去年・一昨年のこの会議で毎回出してもらっていた、府大・市大でいろいろ頑張っていて一緒にやろうとしていますという一覧表(連携・共同化)や図をここに入れて、3年前はこうでした、2年前はこうで、今こうなっていて、一大学になったらやることはこの七つです、みたいなもので流用すれば良い。これまでもかなりやってきたし、

今後はこの辺が残っているのが分かるようにする。そして定性的だけどガバナンスのシナジーみたいな話は、こういう項目で起きると示す。例えば「法人一本化で教員の採用はする」とか、その辺のことを書かないと誰も分からない。それを全然書かない中で3ページみたいな図が出ると、府大は府大、市大は市大で別々に頑張ります、と宣言していることになり、何もガバナンス改革はしないということになってしまう。とにかくこの資料でガバナンス改革の部分が消えています。

(西澤理事長)

なんとも答えようがなくなりましたが、今おっしゃっていた順番というのはかなり感じるところがあります。相談しないと何とも言えませんが、表現についてなど少しディスカッションしようと思います。

(尾崎委員)

研究科の新設は分かったのですが、学部の新設は無いのでしょうか。

(田頭理事)

資料の20ページをご覧ください。

学部で言いますと、農学部、獣医学部、看護学部が新しいものになります。ただ中身で言いますと、現代システム科学域という形で学域を一つ残します。これを一つの大学の売りにしていきたいと思います。SDGsを全学部に対して提供していく学域という形で残していくところであります。

獣医学部に関して言えば、いろいろと獣医の問題というのがありますが、新大学としてはそういう戦略的に、学部として対応していくという考え方を持っており、これらについては関係する先生方にも非常に積極的に働きかけております。

農学部につきましては、これまで大阪府立大学にありました農学系の要素を集めて、都市型農学というのはどうあるべきか、ということを提案していくという形の農学部にしています。

看護につきましては、人材育成の関係もあり、両方の大学の足した人数より若干減らしています。減らしている理由は、やはり看護教育は非常に重要であり、例えば私立大学等でもまだ残っている大学があり、保健師とか助産師をまとめて学部で教育するということがありますけれど、そうではなく、高度な看護教育をするにあたっては、学部教育でしっかりと行い、地域等に根ざした実践看護、あるいは研究型で大学院に行くような看護の学生をまず育てていくということで、保健師・助産師育成成分を若干減らした形の看護学部になっています。

(尾崎委員)

リハビリは医学部に入るんですね。

(西澤理事長)

医学部です。

(川崎委員)

若干減らしているというのは募集人数を減らした、ということですか。

(田頭理事)

募集人数を15人減らしました。その分、大学院の方を増やしています。助産師や保健師を大学院教育の部分で確保していく。人材確保というのは大阪府等からも言われていますので、そういったところはきちんと踏まえながら対応しています。

(尾崎委員)

大学院で受け入れていくと、こういうことですね。

(田頭理事)

はい、そうです。

(上山委員)

これで最後のコメントにしたいのですが、これまでの年表が一ついると思います。そもそも大学改革をそれぞれ府大・市大でどこまで遡るか分かりません。府大は三つの大学が統合した。あるいは法人化から入ってもいいのかもしれませんが、独法化とか地独法人化が起きて、何年か経っています。それから府大・市大と一緒にいろんなことをやり始めた。その結果、いろんなことがすでに起きていて、その成果はこうで、みたいなものをある程度最初の部分（イントロ）に入れればいい。3ページの代わりに「今まで別の大学がいろんなことをやってきた」ということを、きちんと入れたらいい。今までの改革の経過を私もとても高く評価しています。過去の年表とやってきた統合に向けたいろんな努力を書いたらいいと思います。それが書いてあれば、5ページのシナジーの話は一番後ろでいいと思う。ここで「さらに頑張ります」と言うなら、「今まで頑張ってきているんだから、この人たちの言うとおりにやってもらったらいい」となる。だから「今までやってきたのを褒めてください」というのを私は書いていいと思う。数字とかエビデンスも山ほどある。こういう基本構想みたいな書類には普通そういうのは書かないのですが、本件は特殊だと思う。長い時間がかかっている。基本構想の書類はふつう議論してから1年目くらいに出るもの。しかしこれはもう10年目くらいになる。それでどこから書いていいのか、何を書くのか迷われるのでしょうか。しかし、過去の歴史を書くとかだいぶ変わると思う。その辺りを従来型の基本構想という役所のスタイルを少し超えるということでも乗り越えるとまとまる。

(西澤理事長)

今までのことはいっぱい資料が残っていますので、いくらでも書こう思ったら書けます。整理したいと思います。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

貴重なご意見ありがとうございます。この基本構想につきましては来週の火曜日に副首都推進本部会議に出すということが決まっていますので、時間的にはかなり切迫したことになります。この後、役員会で諮って、どうするか検討させていただきたいと思います。どこまでのことがこの期間でできるか分からないですし、すでに府・市にはこの案でディスカッションしているもので、あまり極端な変え方はちょっと難しいかというふうにも思いますので、ご了解をお願いします。

また府・市とそれから三者クレジットという形になるときにも、変更は可能になるかと思
います。ご意見につきましては、メール等でご連絡をさせていただければと思います。本当に
ありがとうございます。

先ほどもございましたけれども、この資料は公表までは取扱いご注意ということでよろしく
お願い申し上げます。スケジュール的には非常にタイトになってきておりまして、2022年の開
学に向けて準備を順次進めてまいりたいと思っております。新大学をより素晴らしい大学にし
たいという気持ちは同じで、みんな一致団結しているわけなんです、委員の皆様方におかれ
ましても、本当に積極的にご支援、ご協力いただいております。今後ともよろしくお願
い申し上げます。